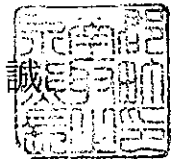




平成20年10月24日
20熊道第301号

国土交通省道路局長 様

熊取町長 中 西



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号により依頼のありました、標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

大 阪 府 泉 南 郡 熊 取 町

○現状

まちづくりの基盤となる道路については、関西国際空港の開港に伴い予想を上回る急速な交通量の増加と整備の遅れから、広域幹線道路である国道170号(大阪外環状線)において慢性的な交通渋滞が発生し、それらを避けるため、町内幹線道路をはじめ生活道路にまで通過交通が流入するなど住民生活に著しい支障をきたしている。

本町では、原子力発電施設等として位置付けられる原子燃料工業(株)の立地地域であり、原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法により、大阪府作成の「大阪府原子力発電施設等立地地域の振興に関する計画」の中で、原子力防災対策の推進を図る観点から基幹的な整備路線として位置づけられている、都市計画道路「大阪岸和田南海線」が現在一部事業中である。

○課題

その解決のためには、国道170号(大阪外環状線)の4車線化及び都市計画道路「大阪岸和田南海線」・「泉州山手線」をはじめとする広域幹線道路の整備促進が急務となっている。また、安全・安心なまちづくりを進めるうえで、住民生活に密着した町道に至る道路網について、防災・環境・高齢者等の利用等に配慮した道路の整備が必要であり、特に子供、老人等交通弱者の対策として、幹線道路の整備、交差点改良及び通学路を主とした歩道整備が急務である。

原子力災害等重大事故などへの備えとして、避難路や緊急輸送路の整備が最優先課題である。

しかし、平成20年6月5日公表の「大阪府財政再建プログラム(案)」において、都市計画道路「大阪岸和田南海線」の第1期事業区間である850mの内、500m区間が一時休止と位置付けられているが、当該区間を含め早期事業推進が急務である。

事業の実施にあたっては、住民の理解と協力が得られるよう、取組むことが必要である。従来のように、行政主導の整備計画ではなく、その道路の持つ意味、事業効果を十分にPRするとともに、整備計画立案の段階から住民と連携した道路整備が望まれる。そのことにより、計画的なスケジュールによるスムーズな事業推進が図られると考える。

今後のみちづくりにあたっては、景観や沿道に配慮をするなど、地域特性を生かしたみちづくりとして、行政と地域住民が一体となった価値観のある道路整備が望まれる。

地域の活性化のために道路整備を計画的に進めることは重要な課題であるが、大阪府及び本町においても財政状況が厳しく、膨大な事業費が必要となる道路事業について、その財源確保に苦慮しているところである。よって、国においては、地域の活性化に資する道路整備を強力に推進するため、必要となる財源の確保と地方への重点的な配分に努め、真に必要な道路整備を遅らせることがないよう支援されることを強く望む。

また、道路構造令の柔軟規定の緩和や、国庫補助事業の採択基準の緩和など、地域の実情に即した柔軟な運用をすることにより、整備コストの縮減が図られ、道路整備促進に繋がるものと考ええる。